



# こどもの日

## <「こどもの日」あらすじ>

5月5日は、子どもたちの成長を祝う「こどもの日」です。

武士の時代、5月5日は、男の子の健やかな成長や幸せを祈る年中行事「端午の節句」でした。その習わしが今では、こどもの日の風習として根付いています。例えば、「こいのぼり」を飾るのは、滝を登る鯉のように、子どもが立派に強く育ってほしいという願いが込められています。この他にも、「よもぎ」を食べたり、「菖蒲」を飾ったりする風習があります。日本には、次のような昔話が伝わっています。

ある若い猟師が狩りに行くと、突然、鬼が襲いかかってきました。その時、若い猟師は、「よもぎの原っぱ」や「菖蒲の茂み」に逃げ込み、鬼から逃げることをできました。鬼は、よもぎの葉っぱを「燃え盛る炎」、菖蒲を「地面から生える剣」だと思い込み、怖がって近づくことができませんでした。その日がちょうど5月5日だったため、今でも5月5日の端午の節句には、魔除けとして「よもぎ」と「菖蒲」を軒先につるします。

私たちが住む新潟では、こどもの日に、魔除けとなる「よもぎ」を使って「笹だんご」を作る地域があります。病気や災いをはらい、家族が健康であるようにと願いが込められています。

他にも、こどもの日に食べるものとして「たけのこ」があります。たけのこは、上に向かってグングンと育つため、まっすぐ元気に育ってほしいという願いが込められています。

### <献立例>

#### 「こどもの日給食」

- ・たけのこごはん
- ・若竹汁
- ・笹だんご など

